

**4K カメラ対応ポータブルズームレンズ 2 機種を発売  
高い機動性を実現した「UHDgc」シリーズのラインアップを拡充**

キヤノンは、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応するポータブルズームレンズの新製品として“CJ18e×28B”を 2019 年 6 月下旬、“CJ15e×8.5B”を 2019 年 7 月下旬より順次発売します。



**CJ18e×28B**  
(倍率 18 倍／焦点距離 28～500mm)



**CJ15e×8.5B**  
(倍率 15 倍／焦点距離 8.5～128mm)

新製品 2 機種は、4K に対応する光学性能を持ちながら、HD 放送用カメラ対応のポータブルレンズと同じ高い機動性と運用性を確保した「UHDgc」シリーズの製品です。本シリーズのラインアップを拡充し、ドキュメンタリーや各種イベント撮影などの映像制作や、報道などにおけるさまざまなニーズに応えます。

**■ 4K カメラに対応する光学性能と高い機動性を確保**

蛍石や UD レンズ<sup>※1</sup>を採用するとともに、それらを最適配置する独自の光学設計技術を用いることで色にじみや輪郭の色づきを抑制し、画像の隅々まで優れた色再現性を実現しています。また、レンズのコーティングや鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、ゴースト・フレアを抑制し、HDR<sup>※2</sup>や WCG<sup>※3</sup>に対応した階調性豊かな映像表現が可能です。HD 放送用カメラ対応レンズと同等の小型・軽量の筐体(きょうたい)を実現することで、4K 光学性能と高い機動性を確保しています。

**■ 望遠端最大 1,000 mmの焦点距離で迫力ある超望遠撮影を実現した“CJ18e×28B”**

“CJ18e×28B”は、倍率 18 倍、焦点距離 28～500mm の幅広い焦点距離をカバーし、レンズ本体に内蔵する 2 倍のエクステンダー使用時には、望遠端で 1,000mm の焦点距離を達成しています。「UHDgc」シリーズの特長である高い機動性と可搬性により、さまざまな撮影スタイルで迫力のある超望遠撮影が可能で、自然番組やドキュメンタリー、報道など多様なシーンで活用できます。

**■ 光学防振機構の搭載により高い抑振性を実現した“CJ15e×8.5B”**

“CJ15e×8.5B”は、キヤノン独自のバリアングルプリズム<sup>※4</sup>による手ブレ補正機構を採用し、広角端から望遠端までズーム全域で、かつ幅広い振動周波数で高い抑振性能を実現しています。4K カメラ対応の光学性能を確保しながら肩担ぎや車載など多様な撮影シーンに対応します。

製品名	希望小売価格	発売日
CJ18e×28B (IASE S)	オープン価格	2019 年 6 月下旬
CJ15e×8.5B (KRSE-V S)		2019 年 7 月下旬

※1 Ultra Low Dispersion Lens＝特殊低分散レンズ。

※2 High Dynamic Range の略。映像の明部と暗部の輝度差(ダイナミックレンジ)を向上させる技術。

※3 Wide Color Gamut の略。映像の色域(カラーガンマ)を広げる技術。

※4 2 枚のガラスに挟まれた高屈折率液体の角度を変化させることにより光軸を傾け、ブレを補正する機構。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304 (直通)  
: イメージングソリューション営業部

● 放送・業務用映像機器ホームページ: [canon.jp/bctv](http://canon.jp/bctv)

## <CJ18e×28B/CJ15e×8.5B の主な特長>

### 1. 4K カメラに対応する光学性能と高い機動性を確保

- ・独自の光学設計で、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに相応しい光学性能を実現。画面の中心から周辺まで高い解像力と高いコントラストを達成。
- ・蛍石や UD レンズを採用するとともに、それらを最適配置することで、色収差を良好に補正。色にじみや被写体の輪郭の色づきを抑制し、画面の隅々まで優れた色再現性を実現。
- ・レンズのコーティング技術や、鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、ゴーストやフレアの発生を抑制。HDR や WCG に対応した階調性豊かな映像表現が可能。
- ・ITU-R BT.2020<sup>※1</sup>の色域対応により、カメラで撮影された ITU-R BT.2020 色域の映像の色収差を高精度に補正できるため、より高画質な映像撮影に貢献。
- ・4K 光学性能を実現しながら HD 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズと同等の小型・軽量<sup>※2</sup>な筐体（きょうたい）を実現することで、高い機動性と運用性を確保するとともに、撮影に伴うユーザーの負担を軽減。

※1 ITU（国際電気通信連合）策定の UHDTV 放送方式の映像信号を規定する勧告。HDR/WCG に対応。

※2 “CJ18e×28B”：質量約 2.76kg、外形寸法約 177.8（幅）×122.5（高さ）×268.3（長さ）mm、

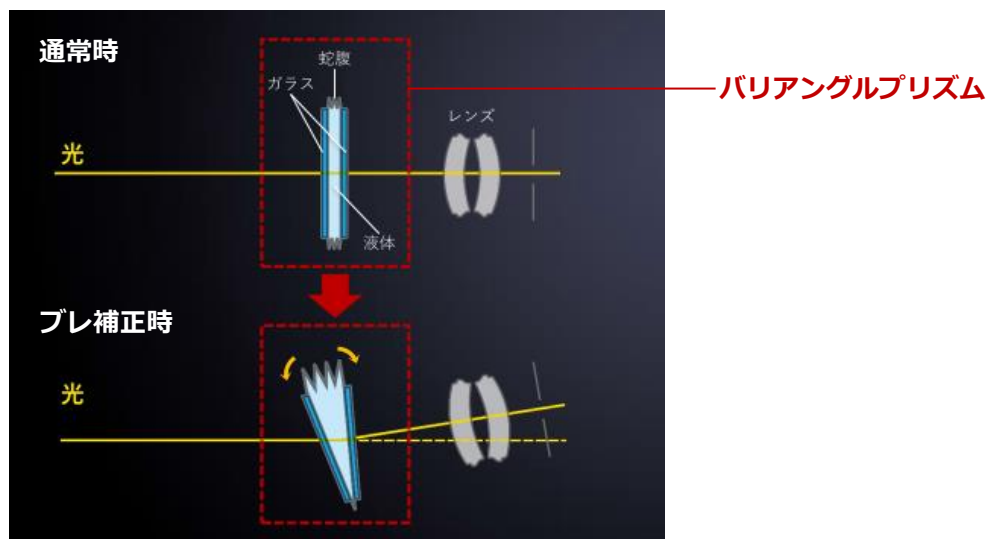
“CJ15e×8.5B”：質量約 2.03kg、外形寸法約 170.2（幅）×116.2（高さ）×239.1（長さ）mm。

### 2. 望遠端最大 1,000 mmの焦点距離で迫力ある超望遠撮影を実現（CJ18e×28B のみ）

- ・ハンディレンズでありながら倍率 18 倍、焦点距離 28～500mm の幅広い焦点距離を実現し、さまざまなシーンの撮影が可能。
- ・2 倍のエクステンダーを本体に内蔵し、ズーム域を 28～500mm から 56～1000mm に切り替えることができ、望遠端で最大 1,000mm の超望遠撮影が可能。エクステンダー使用時でも 4K カメラに対応する高い光学性能を実現。
- ・「UHD gc」シリーズの特長である高い機動性と可搬性により、さまざま撮影スタイルで超望遠撮影が可能であるため、自然番組やドキュメンタリー、報道など多様なシーンでの活用が可能。

### 3. 光学防振機構の搭載により高い抑振性を実現（CJ15e×8.5B のみ）

- ・光学倍率 15 倍、焦点距離 8.5～128mm をカバー。
- ・高い抑振性を実現する光学防振機構を搭載。キヤノン独自のバリアングルプリズムによる手ブレ補正機構を採用し、2 枚のガラスに挟まれた高屈折率の液体の角度を変化させることにより、光軸を傾けブレを補正。



バリアングルプリズムの仕組み

- ・ 広角端から望遠端までズーム全域で、かつ幅広い振動周波数で高い抑振性能を実現。これにより、4K カメラ対応の光学性能を確保しながら肩かつぎや車載など多様な撮影シーンに対応。



高い抑振性（左：手ブレ補正オフ／右：手ブレ補正オン）

#### 4. 高い操作性を実現する高機能デジタルドライブユニット

- ・ 高分解能 16bit 絶対値エンコーダーを採用した高機能デジタルドライブユニットの搭載により、ユーザーの操作意図を忠実に再現する高い制御性能を実現。さらに、高精度な位置検出が可能なたため、実際の映像とバーチャル映像を合わせる際に容易にキャリブレーションが可能。
- ・ 絶対値エンコーダーの採用により、ドライブユニットに電源が供給された際に、初期化の動作をせずに、カメラ側の色収差補正機能や位置検出、ビューファインダー上の位置表示が可能。
- ・ 20PIN 端子を 3 か所に備えることで、ズーム／フォーカスコントローラー（ともに別売り）の両方を使用した場合でも、バーチャルシステム用信号出力端子を確保することが可能。
- ・ ドライブユニット上に情報ディスプレイを搭載しているため、各種機能の容易な設定、調整、操作が可能。

#### <ご参考>

2019年4月8日（月）から11日（木）まで米国ラスベガスで開催される放送・映像制作機器の展示会「NAB Show 2019」のキヤノンブースにおいて、“CJ18e×28B／CJ15e×8.5B”を展示します。

#### <放送用レンズの市場動向>

日本や欧米諸国では、デジタルテレビ放送の普及に伴う放送機器のHD化がほぼ完了し、日本国内では2018年12月より新4K8K衛星放送が開始され、4K対応機材の導入がさらに加速しつつあります。一方、新興国では、今後デジタル放送への完全移行が予定されている国も多くあり、HDTV放送用機材の需要も継続して見込まれるとともに、4K放送への関心も高まっています。（キヤノン調べ）

#### <“CJ18e×28B／CJ15e×8.5B”の主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。